

卒園児保護者の声

田中 由美さん



- ・元小学校教員、現在は私立高等学校教員
- ・3人の子どもの在園中、保護者の読み聞かせクラブ「すまいるチュチュ」の立ち上げに携わる。
- ・昨年度まで、ボランティアで荏原幼稚園園児を対象に、月1回絵本の読み聞かせを行う。地域や小学校で、お話し会や読み聞かせなどで活動中。朗読ユニット「ホワイトルピナス」のメンバー。

親子で育つ荏原幼稚園

我が家には子どもが3人います。3人とももう社会人ですが、みんな荏原幼稚園で育ちました。実は私自身もうんと昔の卒園児で、親子で荏原幼稚園の大ファンです。

先日、末娘に「荏原幼稚園で思い出に残っていることって何かある？」と聞いたら、楽しそうに答えてくれました。「いっぱいあるよ！園庭でお花や草の実をとってジュース屋さんごっこをしたり、部屋の隅っこに基地を作ったり、小学校によく遊びに行ったり。大雪の降った日には、みんなで雪だるまやかまくらを作ったりしたなあ。お弁当の日に、近くの公園まで散歩するのも楽しかったよ。そうやっていっぱい遊んだから、幼稚園の同級生とはずっと気持ちが繋がっているよ。成人式の日、『荏原幼稚園の人、集合〜！』と誰かが声をかけたら大勢が集まってきて、一緒に写真を撮ったのがすごく嬉しかった。それって全部、自然の中で思い切り自由に伸び伸びさせてもらえたからなんだなあ、今、改めてわかるよ。」と。私は、娘のこの言葉に荏原幼稚園の魅力が全て入っていると思いました。

『人生で必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』という本がありますが、私も荏原幼稚園での子供たちの育ちを見ていて、本当にその通りだと実感しています。一見、ただ遊んでいるように見える子供たちの姿の後ろには、先生方の行き届いた配慮と深い人間理解があります。知識の詰め込みを急ぐのではなく、自然の中での遊びや子供たちの生活そのものの中から、自分の力で人生を歩んでいける「心と地頭」をじっくり丁寧に育てていくというのが、荏原幼稚園ならではの素晴らしいところだと思うのです。

また、「幼小連携」も大きな魅力です。目の前に小学校があり、卒園したお兄さんお姉さんとの交流があること、幼稚園の時から松山市内の小学校と同じ給食に親しめることなども、子供たちにとってとても安心で嬉しいことだと思います。

もう一つ、親の立場で実感しているのは、「荏原幼稚園では、親も育つ。」ということです。お迎えの時間の後も広々とした園庭を開放してくださるので、子供たちは自由に遊び、親たちはそれを見守りながらいろいろな話をして過ごしました。また、読み聞かせなどのサークル活動を通じて、他の学年のいろいろな年齢のお母さんたちとたくさん交流しました。我が家の3人の子供たちにそれぞれ竹馬の友ができたのと同時に、私にもたくさんのママ友たちとのご縁が生まれ、その絆は今でもずっと続いています。当時の教頭先生が、「おかあちゃんが笑っていたら、子供は安心して育つものよ。」とよくおっしゃっていました。時代は目まぐるしい勢いで変化していきますが、これはずっと変わらない大切なことだと思います。

今では、フルタイムでお仕事をされているご家庭のために預かり保育の時間帯も長くとっているとのこと。ゆっくりお迎えに来られる方のための十分な駐車場もありますし、お急ぎの方のためには「ドライブスルー」での送迎もできるそうです。たくさんの方々に、ゆったり優しい荏原幼稚園にぜひ来ていただいて、かけがえのない「親子の育ちの時間」を経験していただければと願っています。